

平成18年度 事業報告書

本財団の目的を達成するため、次に掲げる事業を行った。

1 理事会等開催状況

会議名	開催日	内容
平成18年度 第1回 通常評議員会	平成18年6月2日 西鉄グランドホテル	・平成17年度事業報告及び収支決算書
平成18年度 第1回 通常理事会	平成18年6月8日 ホテルオークラ福岡	・平成17年度事業報告及び収支決算書
平成18年度 第1回 臨時評議員会	平成18年8月25日 書面による評議員会	・理事の選任
平成18年度 第1回 臨時理事会	平成19年1月18日 書面による理事会	・評議員の選任
平成18年度 第2回 臨時評議員会	平成19年2月15日 書面による評議員会	・理事の選任
平成18年度 第2回 通常理事会	平成19年3月15日 ホテルオークラ福岡	・平成18年度特別会計収支予算の補正 ・平成19年度事業計画 ・平成19年度収支予算
平成18年度 第2回 通常評議員会	平成19年3月20日 ホテルオークラ福岡	・平成18年度特別会計収支予算の補正 ・平成19年度事業計画 ・平成19年度収支予算

※書面による理事会及び書面による評議員会の開催日は、決議書提出締切日。

2 事業の概要

(1) 学術研究に関する広報活動事業

①企業セミナーの開催

i 「福岡県企業セミナーIN 東京」(福岡県と共催)

テーマ: 「自動車生産150万台拠点へ！」

「水素利用技術の世界的研究開発拠点を目指して！」

開催日時: 平成19年1月31日(水) 14:00~17:00

開催場所: 赤坂プリンスホテル 別館5階「ロイヤルホール」

参加者数: 150名

ii 「第2回未来化学創造センターシンポジウム」(協賛)

～伊都に舞い降りる「知の創造空間」九大学研都市～

開催日時: 平成19年1月25日(水) 13:00~17:50

開催場所: メルパルク大阪

来場者数: 450名

iii 「第1回九州大学学術研究都市情報交流セミナー」

テーマ: 「九州大学学術研究都市の魅力」

「九州大学の魅力」

開催日時: 平成19年2月9日(金) 15:00~17:50

開催場所: ホテルレガロ福岡

来場者数: 120名

iv 「その他出展活動」

- ・福岡ナノテクNOW2006 (5/25~27)
- ・福岡水素エネルギー社会近未来展2006 (11/20~23)
- ・福岡ビジネスフォーラム2006 (11/28)
- ・FC EXPO 2007 (2/7~9)

②東京会議の開催及び国省庁への要望活動

i 「九州大学学術研究都市構想促進東京会議」を開催し、首都圏のオピニオンリーダーと学研都市に関する意見交換を行った。

・開催日時: 平成19年1月19日(金)

・開催場所: 高輪プリンスホテル

・参加人員: 21名(東京会議委員12名、地元代表者9名)

・内容: 「九州大学伊都キャンパスの進捗状況」「九州大学学術研究都市と推進機構の活動」「九州大学百周年記念事業」について説明した後、質疑応答。総会終了後、交流会を開催し、さらに議論を深めた。

ii 推進協議会による国省庁への要望活動

7月19日に、九州大学学術研究都市推進協議会と共同で、国の機関(3省15課)を訪問し、学研都市づくりに対する協力要請を行った。

③学術研究都市構想及び九大有力シーズの海外向けPR

在日企業や、海外に向けた情報提供の一貫として機構ホームページの英文化及び、英文パンフレットの制作を行った。

- i ホームページの英文化
- ii 英文パンフレットの制作

④九大研究シーズの情報発信

当機構が注目する33の有力シーズを分かりやすく、見やすいシートにリニューアルし、ホームページで公開した。

また、九大ユーザーサイエンス機構との共同で企業側のニーズのキーワードからシーズを検索するためのシステム開発を行った。

⑤地下鉄電照広告

企業・研究所誘致を促進するため、不特定多数の方へのPRに適した地下鉄駅の電照広告を利用し、九州大学学術研究都市と推進機構のPRを行った。

設置箇所：福岡空港、博多駅

⑥その他の広報活動

i ビッグオレンジの活用

九州大学伊都新キャンパスに設置されている、九州大学の総合情報施設（ビッグオレンジ）において、同キャンパス来訪者に、プラズマテレビや機構の紹介パネルを用いて、情報提供を行った。

ii ホームページの更新

財団業務に関する事業概要や最新情報の発信を行った。

iii 機構ニュース「OPACKめーる」の発行

財団の業務や学術研究都市に関する情報提供のため、機構ニュース「OPACKめーる」を定期的（年4回）に発行した。

発行時期：年4回（7月、11月、1月、4月）

発行部数：各号2000部

(2) 産学官の共同研究による研究開発支援事業

①ICカードの活用等に関する調査

18年度のICカード「e-World プロジェクト実証試験」（交通機関利用、情報家電管理、ショッピング決済などの実験）を支援した。

②水素プロジェクトに関する調査

九州大学及び企業の研究所等を訪問し、企業のニーズを探し出すとともに、「FC EXPO 2007」に出展し、機構の取り組みを広くアピールした。

「FC EXPO 2007」

開催日時：平成19年2月7日（水）～9日（金）3日間

開催場所：東京国際展示場（東京ビッグサイト）

来場者数：約2万5千人

③地中熱プロジェクト

本プロジェクトは、糸島半島特有の地形に起因する「地中熱」を活用すべく、九電総研生物資源研究センター（前原分場）のビニールハウスで実証実験を行い、周辺農家への展開を検討するというものである。

12月の現地視察を皮切りに、打合せを重ね、3月には「九大（藤井先生）＋九電総研（大山GL）」で共同研究することで話がまとまり、現在に至っている。

（3）研究機関等の立地支援事業

①産学連携施設等の立地誘導に関する調査

福岡市産学連携交流センターに関して、施設内容など入居条件も含む入居意向調査(2,380社)を行うと共に、併せて他都市の事例調査を行った。

②都市形成調査

企業・研究機関の立地や一次圏域の整備を促進するため、次の事業を実施した。

i PRビデオ（DVD）の作成

九大学研都市の企業・研究所立地環境等に関する企業向けのPRビデオ（DVD）を作成した。

ii タウン・オン・キャンパス地区機能配置計画策定調査

元岡・桑原地区における、まちづくりの方針および研究施設等各種機能に関する配置計画を策定することを目的として、調査を実施した。

③「ほたる（リサーチパーク）」への企業誘致方策調査

学研都市へのR&D機関の集積を図り、今後の企業誘致方策に活用するため、水素・燃料電池関連企業へのアンケート（520社）及びヒアリング調査（20社）を実施した。

④スーパーコンピュータの誘致活動

五者会議の指示のもと、学研都市づくりの「起爆剤」として、国のビッグプロジェクトを誘致したが、残念ながら、H19年3月に理化学研究所より「候補地は神戸に決定」とプレス発表された。

今年度の主な活動は、以下のとおり

・H18年7月 五者メンバーによる陳情訪問

五者メンバー（福岡市長（団長）九大総長、県副知事、九経連部長、機構理事長）が、文科省研究振興局：清水局長を陳情訪問し、WGメンバーが、文科省担当課長と理研担当グループディレクターへ資料を説明した。

・H18年10月 五者メンバーによる理研のヒアリング対応

五者メンバー（九大総長（団長）、県副知事、福岡市副市長、九経連常務理事、機構理事長）が、理研による15候補地のヒアリングに対応。

- ・ H18年10月 「将来のスーパーコンピュータとシミュレーション科学シンポジウム」
ホテルオークラ福岡 190名参加
- ・ H18年10月～11月
文科省・理研からのヒアリング（文書による）に福岡市が窓口となり対応。

⑤企業向け現地説明会の開催

企業・研究所の新設及び移転の候補地としてもらうため、各適地の開発計画や周辺環境の良さ等のまちの魅力と、九州大学伊都キャンパスの移転状況及び先端施設について現地説明会を実施した。

- i 「県外企業向け 現地説明会」
日 時：平成18年11月9・10日
参加者：15名
- ii 「県内企業向け 現地案内会」
日 時：平成18年12月14日
参加者：21名
- iii 「企業見学会」（福岡ビジネス協議会）
日 時：平成18年5月18日
参加者：125名
- iv 「とび梅研究会」（福岡県工業技術センターと連携）
日 時：平成19年3月2日
参加者：31名

⑥企業訪問

企業に対し、「九大の移転」と「学研都市の現状」の情報を提供し、「九大との産学連携」を勧奨するため、昨年度に引き続き、企業訪問を行った。

i 訪問実績

昨年度は、福岡市内の大手企業の九州支社を中心に160社の訪問を行ったが、今年度は、下記の企業等にターゲットを絞り、延べ340社を訪問した。

- ・ 大手企業の関東・関西の本社及び研究所
- ・ 北九州地区を含む地場企業の本社及び研究所
- ・ 「福岡市産学連携交流センター」への入居可能性の高い企業
- ・ 福岡県水素エネルギー戦略会議の会員企業で、産学連携に関心の高い企業 etc.

ii 実施結果

企業訪問により、直に企業誘致に結びついた実績はないが、シンポジウム・セミナー等の広報活動と平行して、今後も「フェイス to フェイス」の情報提供を継続する。

(4) 産学連携交流支援事業

①産学連携交流会の開催

九州大学の研究シーズと企業のニーズとのマッチングを図るため、「バイオテクノロ

ジー」をテーマに講演会を開催し、併せて当財団の活動状況や九大学研都市の魅力を紹介した。

「OPACK交流会」

日 時：平成18年12月22日（金）15:00～17:00

場 所：ホテルレガロ福岡

参加者：46名

②「超高压電子顕微鏡」の会員制運用

九州大学超高压電子顕微鏡室と連携して、九州大学保有の電子顕微鏡（9台）の民間企業への開放を行い、使用方法の研修を含めた会員制の運用を機構が事務局となつて行うもの。

広報活動の結果、平成18年度の入会実績は4社となり、現在さらに2つの企業が入会に向けた手続きを進めている。

③九大農学部若手研究者との連携

九州大学農学部若手研究者の横断的ネットワーク支援の第一弾として、二市二町（福岡市・前原市・志摩町・二丈町）の地元農家を主体に、JA、行政職員に参加いただき、農業に関する悩みや九州大学に求めることを伺い、大学として今後の研究や活動に活かしていくための、ワークショップを開催した。

テーマ：「農業のお悩み、九大農学部がドーンと受け止めます」

日 時：平成19年2月23日（金）14:00～17:00

場 所：九州大学伊都キャンパス ビッグオレンジ

参加者：70名

④他組織との連携

i 九大知財本部（リエゾン部門他）

リエゾン部門の定例会議に参加し、情報の収集・提供を行いながら、企画（地中熱プロジェクト他で連携）等その他の部門へも連携を広げつつある。

ii 福岡ビジネス協議会（FBK）

毎月の月例会等で、地場企業と積極的に情報交換を重ねながら、5月には「現地視察会」として、九大伊都キャンパスと周辺の企業立地予定地を、125名の会員が見学した（「企業向け現地説明会の開催」の項を参照）。

iii 政策投資銀行

1～2月に1度の頻度で情報交換を重ねている。10月には当方の「企画・運営会議」で、政投銀のレポート「九州地域設備投資動向」：要旨を説明してもらった。

iv 福岡県工業技術センター

1月のキックオフミーティングを皮切りに情報交換を始め、先方の「H18年度とび梅研究会」の3月の例会では、当機構の活動状況プレゼンと九大伊都キャンパス（水素キャンパスと超高压電子顕微鏡室）視察を行った。

v 福岡5：01サロン

当サロンは、福岡七社会の企業を中心とする情報交換の場であるが、企業訪問で懇意になった三井物産九州支社の紹介で、2月例会より出席している。